

# 学童保育指導員の労働と意識

——2007年度全国調査報告——

大谷直史\*

## Occupational Awareness of After School Care Workers ——Report of a National Survey in 2007——

OOTANI Tadasi

キーワード：学童保育指導員，意識調査，バーンアウト

Key Words：after school care worker, questionnaire, burn-out

### 第1章 課題

本論文は、2007年度に実施された「学童保育指導員の生活と労働に関する実態調査」(学童保育指導員の生活と労働研究会(代表:植田章, 奥野隆一))を用いて、学童保育指導員の労働の状況と意識を明らかにしようとするものである<sup>1</sup>。調査の概要は下記の通りであり、今回使用するデータはそのうち、職員の労働条件・健康状態に関わる部分である。なお調査結果の年齢別単純集計を資料として付した。

期間：2007年12月10日～2008年1月30日

対象：全国14457か所の学童保育所から5000か所を無作為に抽出。1施設4名の指導員に調査協力を依頼(4名以下の場合は全指導員、4名以上の場合は4名まで)。

方法：郵送による自記式

回収率：51.0%(回収数2549票)

現代日本においては、わたしたちに安心と生きる意味を提供してくれる親密圏は衰退し続けている。家族をはじめ、親族や近所や職場といった親密な関係性を紡ぐことのできた場所は、量的・質的に脆弱化していることは様々なデータで示されている。これらの中では唯一家族のみが最後の砦として、少なくとも意識の上では大切であると思われるようにますますなっている<sup>2</sup>。

このような従来からあった選択できない親密圏に変わり、選択可能な親密圏である領域がNPOやボランティアという形で着目されている。これらは家族のようにあらかじめ所属しているものではなく、また近所や職場のように場所や所属に付随して形成された親密圏ではない(少なくとも外見上は)。親密な関係性そのものを創出することを目的として形作られた組織なのである。見田宗介の言葉を借りれば、交響圏<sup>3</sup>と言うべきこの新しい親密圏は、従来の親密圏が外部化し続けている生活を再構築することを意図してつくられているのだ。

---

\*鳥取大学生涯教育総合センター

もちろんこれらすべてが生活の再構築という使命を意図的に持っているわけではなく、やむを得ず、あるいはたまたま集っている場合や、別の動機（個人的には頼まれたから、お金が必要だから等）を契機として親密な関係性を取り結ぶこともあるだろう。本稿で論じる学童保育（放課後児童クラブ）もまた、「鍵っ子対策」として消極的に論じられることもあれば、子ども集団の教育的価値が語られることもあり、結果的に子どもの生活を紡ぐ親密圏であったとしても、その内実はさまざまであろう。本稿では2007年度に行われた全国質問紙調査をもとに、その親密圏としての学童保育の可能性を論じようとするものである。

以上の問題関心は「学童保育」が語られる際に「生活の場」<sup>iv</sup>であることが往々にして強調され、その存在意義が語られるということにも由来する。たとえば近年においても、いわゆる全児童対策事業との区別を語る際に、子どもと指導員の関係性や子ども同士の関係性、おやつの有無等によって、学童保育が生活の場となっていることが語られる。しかしながら全児童対策事業で、あるいは子どもだけで遊んでいたとしてもそれは子どもにとっての生活の一部であるとも言える。問題なのはそれがいかなる生活の場となっているかであり、学童保育がどのような「生活の場」を実践しようとしているのか、その固有の意義を明らかにしなくてはならない。

しかしながら仕事として「生活の場」を創出しようとする試みは、その目標設定時点で1つの困難を抱えることになる。通常わたしたちは、生活の場として家族を思い浮かべ、家族の一員としての行為は「仕事ではない」という意識を有している。また家族は互いに親密な感情を抱き、無償の愛に基づいた行為を行う場と認識されている。しかし学童保育指導員は家族とは異なり、無償で親密な関係性を結んでいるのではなく、あくまで「仕事」として関係している。

親密圏に関わる仕事においては、職務に忠実であろうとすればするほど、それを単なる仕事としてではなく、本心から（家族のように）接することが必要であるように思えてくる。あるいは自分の生活に投入されるべき情緒的資源を仕事において投入することが求められる。「バーンアウト」はこういった対人サービスを行う労働者に固有の問題として指摘され、尺度の形成、対処の方法などに関する研究がすすめられてきた。本稿では学童保育指導員のバーンアウトに関わる状況を検討することで、対人サービス、親密圏に関わる仕事における固有の問題を明らかにすることも目的としている。まず第2章で調査対象となった学童と指導員の概要を記したうえで、第3章で指導員の労働条件及びストレス状況を明らかにし、第4章でこれらの関連を考察する。このような（労働）条件が生活の場としての学童保育の姿をどのように規定しているのかについてはあらためて論じた。

## 第2章 調査結果の概要

### 第1節 学童保育の概要

本調査で対象となった学童保育所は、「公立公営」の45.7%を始め、表1の通りとなっている。これを全国学童保育連絡協議会による2007年度の調査<sup>v</sup>と比較すれば、「父母会・保護者会運営」が7.5%多く、逆に「法人等」が8.3%、「地域運営委員会」が16.8%少なくなっている。全国的状況を推察する場合には、若干の考慮が必要であろう。これは調査の方法上の各施設4名が回答しているため、大規模な学童の回答割合が低下することも影響している。また分類は異なるが、厚生労働省による調査結果を表1の下部に示した。

表1. 運営主体

本調査		全国学童保育連絡協議会 2007	
公立公営	45.7%		44.2%
公社や社会福祉協議会	9.5%		11.3%
地域運営委員会	11.7%		16.8%
父母会・保護者会	16.5%		9.0%
私立幼稚園（学校法人）	0.4%		16.4%
私立保育園（社会福祉法人）	3.5%		（法人等）
NPO	4.2%		
その他	6.3%		2.4%
無回答	2.6%		
厚生労働省 2007			
公立公営			44.4%
公立民営			40.8%
民立民営			14.8%

学童保育を語りづらくさせているのは、この運営主体の多様性や次に見る開設場所の多様性である。たとえば同じ正規職員でも公設公営とそれ以外の運営とでは賃金に大きな格差があり、学童保育指導員の場合「正規職員は……」という言い方は不誠実な表現となってしまう（ただし多様であること自体は否定的であるとは限らないので、いかなる区分が有効であるかを提起する必要がある）。開設場所も表2に示した通り、多様である。学校敷地内の学童保育専用施設が27%、空き教室が21%、地域の中の独立した学童保育専用施設が13%、児童館の中の学童保育専用施設が12%となっており、他の調査と分類は異なるが同様の傾向を示している。運営主体と開設場所は密接に関係しており、図1に示す通り、公立公営と社会福祉協議会では学校敷地内とともに児童館が多く、地域運営委員会や父母会・NPOでは、地域の中の施設がおおくなっている。また私立幼稚園・私立保育園では母体となる幼稚園・保育園で実施される場合が多い。

表2. 開設場所

本調査		厚生労働省 2007		全国学童保育連絡協議会 2007
空き教室	21.3%	学校の余裕教室	28.5%	47.5%（学校施設内）
学校敷地内の学童保育専用施設	26.6%	学校敷地内専用施設	18.3%	
空き教室以外の学校施設	3.7%			
児童館の中の学童保育専用施設	12.0%	児童館・児童センター	15.6%	15.8%（児童館内）
地域の中の独立した学童保育専用施設	13.1%	公的施設利用	9.6%	18.4%（その他の公的施設）
		公有地専用施設	5.9%	
		民有地専用施設	4.2%	
地域の中の民家・アパートの一部	6.4%	民家・アパート	6.4%	7.2%
		団地集会室	0.7%	
		商店街空き店舗	0.2%	
保育園や幼稚園の中の学童保育専用施設	4.0%	保育所	6.0%	6.7%（法人等の施設）
		幼稚園	2.4%	
その他	9.5%	その他	2.2%	4.4%
		無回答		

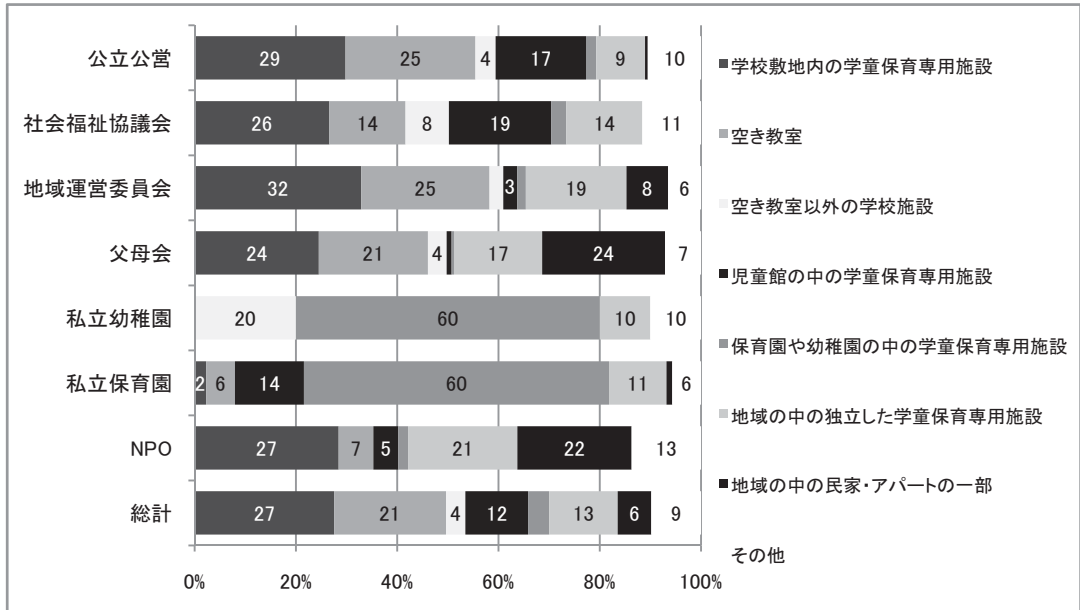


図1. 運営形態別開設場所

学童の入所児童数でみた規模は表3の通りである。40～49人が18.4%と最も多くなっている。他の調査と同様大規模化を示唆する結果であるが、入所児童数によって第3章以下で見る意識との関連はあまり見られなかった。これは今回、クラス編成を把握していないことや、指導員1人あたりの児童数を把握していないことが原因と考えられる。また学年ごとの人数や施設の大きさ、利用可能な施設（体育館など）などとの関連も考えねばならず、学童保育の類型把握の難しさを思い知らされる。

表3. 入所児童数

人数	割合
10人未満	2.4
10～19人	7.0
20～29人	13.1
30～39人	15.3
40～49人	18.4
50～59人	13.4
60～69人	10.7
70～79人	6.8
80～89人	4.7
90～99人	2.4
100人以上	4.0
無回答	1.8

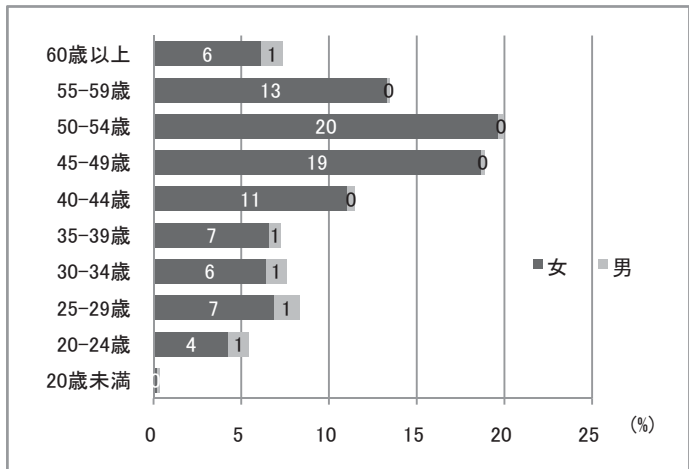


図2. 性別年齢構成

次に指導員の属性・労働条件を確認する。まず図2の通り、指導員の93%は女性であり、年齢では40歳代後半と50歳代前半がそれぞれ1/5となっている。全体から見ればわずかであるが、若くなるにしたがって男性の割合が高くなり、男性割合は20歳代前半では22%、20歳代後半では18%となっている。

表4. 年齢別雇用形態・勤務年数 (%)

	正規職員	臨時職員	非常勤職員	嘱託職員	パート アルバイト	有償ボ ランティア	記入ミ ス	無回 答	2 年未 満	2 ～ 5 年未 満	5 ～ 7 年未 満	7 ～ 10 年未 満	10 ～ 15 年未 満	15 ～ 20 年未 満	20 ～ 25 年未 満	25 年 以上	無回 答
20歳未満	25	25	0	0	50	0	0	0	88	13	0	0	0	0	0	0	0
20～24歳	29	14	15	8	33	0	1	0	67	31	1	0	0	0	0	0	0
25～29歳	39	14	10	7	28	0	1	0	37	45	13	4	0	0	0	0	1
30～34歳	46	12	8	6	24	2	1	2	32	25	13	17	13	0	0	0	0
35～39歳	30	20	7	11	28	3	0	1	33	32	13	7	10	5	0	0	0
40～44歳	21	17	10	15	29	3	1	3	20	38	15	10	7	6	3	0	1
45～49歳	19	17	10	18	30	4	0	3	28	27	17	14	7	3	3	1	1
50～54歳	23	12	10	16	32	4	1	2	19	25	16	16	11	4	2	5	1
55～59歳	21	14	10	18	29	6	1	2	18	23	10	13	12	8	5	9	2
60歳以上	12	22	12	13	27	11	1	3	27	32	10	7	5	7	6	4	2
総計	25	15	10	14	29	4	1	2	28	30	13	11	8	4	2	3	1

年齢別の雇用形態及び、勤務年数を表4に示した。20歳代後半から30歳代前半にかけて正規職員が多いが、年齢に関係なくほぼ3割がパート、ボランティアであり、正規職員は全体の25%にすぎない。勤務年数も2～5年未満が30%、2年未満が28%を占めており、これは年齢とともにやや減少するものの、50歳後半でもそれぞれ18%、23%と、中堅・ベテランの少ない（入れ替わりが激しい）職場であることがうかがわれる。

表5. 雇用形態別年収・勤務年数 (%)

	～ 10 0 万 円	～ 15 0 万 円	～ 20 0 万 円	～ 25 0 万 円	～ 30 0 万 円	～ 35 0 万 円	～ 40 0 万 円	40 0 万 円 ～	無回 答	2 年未 満	2 ～ 5 年未 満	5 ～ 7 年未 満	7 ～ 10 年未 満	10 ～ 15 年未 満	15 ～ 20 年未 満	20 ～ 25 年未 満	25 年 以上	無回 答
正規職員	9	20	16	20	10	6	3	15	1	17	25	13	12	11	8	5	8	0
嘱託職員	23	28	25	17	6	0	0	0	1	18	28	14	14	14	6	3	3	0
非常勤職員	39	30	16	11	3	0	0	0	1	28	36	13	11	7	2	2	0	1
臨時職員	48	32	13	4	1	0	0	1	1	35	28	16	13	5	2	1	1	0
パート、 アルバイト	69	26	3	1	1	0	0	0	0	38	34	12	9	5	2	0	0	0
有償ボ ランティア	79	18	1	1	0	0	0	0	1	27	25	15	17	8	1	4	2	0
総計	41	26	12	9	4	1	1	4	1	28	30	13	11	8	4	2	3	1

表5は雇用形態別に年収・勤務年数を示したものである。年収は概して低く、正規職員でも年収200万円前後が多い。400万円以上の者は2549名中99名であるが、そのうちのほとんどは公立公営の正規職員に占められている（91名）。公立公営の場合、表6の通り正規職員の割合は極端に低く11%を占めるにすぎないことを考えると、学童保育指導員を本職にしてそれだけで生計を立てているケースはまれであることが分かる。雇用形態別に勤続年数を見ても、正規職員に勤続年数の長い者が比較的多いが、それも嘱託職員や有償ボランティアと比べてほとんど差はない。それゆえ正規職員でも副業を行っているものは9%に達する（全体では18%）。また正規職員に限れば、雇用・労働

保険は86%, 健康保険は71%, 厚生年金は69%が加入しているが, 全体ではそれぞれ60%, 41%, 40% (資料参照) と高い加入率とは言えない。

また表6からは公立公営と社会福祉協議会が嘱託職員, 臨時職員, パート・アルバイトを主力にしているのに対し, 地域運営委員会と父母会, NPOは正規職員, パート・アルバイトを主力にしているという違いがはっきりと出ている。

表6. 雇用形態別年収・勤務年数

(%)

	正規職員	嘱託職員	非常勤職員	臨時職員	パート, アルバイト	有償ボランティア	記入ミス	無回答	総計
公立公営	11	23	14	26	20	3	1	1	100
社会福祉協議会	18	20	9	15	35	2	0	0	100
地域運営委員会	41	4	2	2	37	12	0	1	100
父母会	38	2	6	2	46	4	0	1	100
私立幼稚園	10	0	0	0	80	0	0	10	100
私立保育園	43	8	2	16	28	0	0	2	100
NPO	57	0	8	1	27	6	1	1	100
その他	44	6	13	6	27	2	0	2	100
総計	25	14	10	15	29	4	1	2	100

表7の通り, 正規職員は1週間の労働時間が40時間を超える者が43%おり, 持ち帰り労働も多い。全体として一番多い週20時間以上30時間未満は27%, 10時間以上20時間未満が26%となっている。週当たりの勤務日数は, 5~6日が47%を占めており, 週6日の8%, 週5日の12%を合わせれば, 67%はほぼ毎日出勤していることになる (資料参照)。持ち帰りの仕事は, なしが41%, 5時間未満が28%と割合としては少ないものが多いが, 50時間以上とするものも5%おり, 一部では持ち帰り労働が常態化している可能性がある。

表7. 雇用形態別労働時間・持ち帰り労働時間

(%)

	労働時間(週)								持ち帰り労働時間(9月)								
	10時間未満	~20時間	~30時間	~40時間	~50時間	50時間以上	記入ミス	無回答	なし	5時間未満	~10時間	~15時間	~20時間	~30時間	~40時間	~50時間	50時間以上
正規職員	5	5	15	32	39	4	0	0	26	31	18	5	6	3	1	1	4
嘱託職員	5	19	40	28	8	1	0	0	35	34	12	5	2	2	1	1	4
非常勤職員	9	29	30	28	2	1	0	1	40	30	8	7	2	2	0	2	6
臨時職員	10	34	28	18	8	1	0	1	52	25	6	2	1	1	1	2	5
パート, アルバイト	16	42	32	7	3	1	0	0	52	24	5	1	1	2	1	2	5
有償ボランティア	47	33	16	2	1	0	0	0	45	21	4	5	1	8	3	2	5
総計	11	26	27	20	13	2	0	1	41	28	10	4	2	2	1	2	5

児童保育指導員の各種資格保有状況 (表8) であるが, 幼稚園教諭が最も多く33%, 続いて保育士32%, 中学校高校教諭20%, 小学校教諭13%, 看護師1%となっている。ここにあげられた資格

を持たないものは37%であり、3人のうち2人は何らかの資格を持っている。年齢による一貫した傾向は見られないが、20～24歳で保育士、幼稚園教諭の割合が多くなっている。

表8. 年齢別所有資格

	資格なし	幼稚園教諭	小学校教諭	中学校 高校教諭	保育士	看護師	その他	無回答	(%)
20歳未満	63	13	0	0	25	0	13	0	
20-24歳	33	40	7	9	41	0	17	0	
25-29歳	20	29	13	20	33	0	22	1	
30-34歳	22	35	12	23	37	1	18	0	
35-39歳	30	32	9	15	30	1	20	1	
40-44歳	25	39	13	15	34	2	19	1	
45-49歳	24	39	14	19	33	0	17	2	
50-54歳	21	38	17	26	34	1	15	1	
55-59歳	27	27	10	21	27	1	19	2	
60歳以上	33	9	14	25	14	2	26	2	
総計	25.0	33.3	12.8	20.2	31.7	0.9	18.6	1.3	

以上、学童保育の概要と指導員の属性を概観してきたが、改めて明らかになったのは学童保育の多様性、指導員の多様性である。学童保育の多様性は、設置形態・開設場所・入所児童数についてみただけでも一概に語るができないことが明らかであるほどである。設置基準がないためではあるが、その基準をつくるためにも現状の多様な状況を類型化し、比較することが必要となる。指導員は、子育てを終えた40代後半から50代前半の主婦が非正規で数年から10年未満務めるという形態が中心となっている。ゆえに雇用形態はパート・アルバイトが最も多く、非正規雇用が多くを占める。ただし正規雇用であったとしても年収は200万円前後が多く、また表9にみるよう、労働時間に見合った収入を得ていないことが勤務年数が短い要因となっていると考えられる。

表9 労働時間（週）別年収

	～100万円	～150万円	～200万円	～250万円	～300万円	～350万円	～400万円	～450万円	400万円～	記入ミス	無回答	総計	(%)
10時間未満	74	13	4	2	1	0	1	0	1	0	3	100	
～20時間未満	84	13	2	0	1	0	0	0	0	0	1	100	
～30時間未満	34	48	11	6	1	0	0	0	0	0	0	100	
～40時間未満	4	29	28	23	10	2	1	1	2	0	0	100	
～50時間未満	2	13	19	21	11	6	4	3	19	0	1	100	
50時間以上	23	18	15	10	10	10	8	0	5	0	0	100	

### 第3章 指導員の仕事に関する意識

前章で見たように、必ずしも恵まれているとは言えない職場でなぜ働くのか（後に述べるように働こうと思っていない者もいるのだが）、まずは就業の動機（3つ回答）の結果を見る。もっとも多くの者があげている理由は「子どもが好きだから」（70%）であり、年齢が低いほどこの理由をあげている。同じく若い者の方があげる理由が「働きがいがありそうだから」（60%）というものであり、

40歳以上が30~40%であるのと対照的である。逆に年齢が高くなると40から50歳代では「家庭と両立できそうな仕事だから」(41~46%), 60歳以上では「依頼されたから」(41%)と、年齢による動機の違いがよく分かる。また「資格・知識をいかしたいため」という理由は年齢を問わず高く、学童保育指導員は、子どもに関わるという点で仕事を選んでいることが分かる。ただし、20歳代では最初の3つの仕事内容に関わる選択肢の少なくとも1つをほとんどの者(97%)が選ぶが、30歳代では88%と減少し、60歳以上の81%まで減少する。若くなるほど、仕事の内容で動員の仕事を選んでいることが分かる。

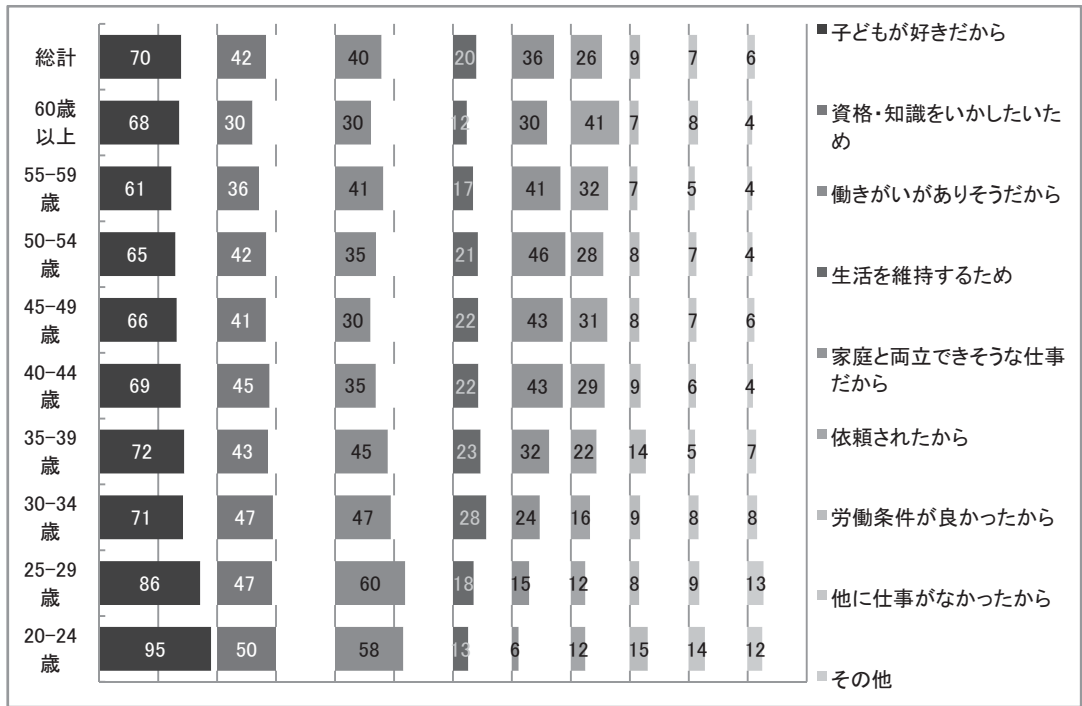


図3 年齢別、学童保育で働く理由(3つ選択)

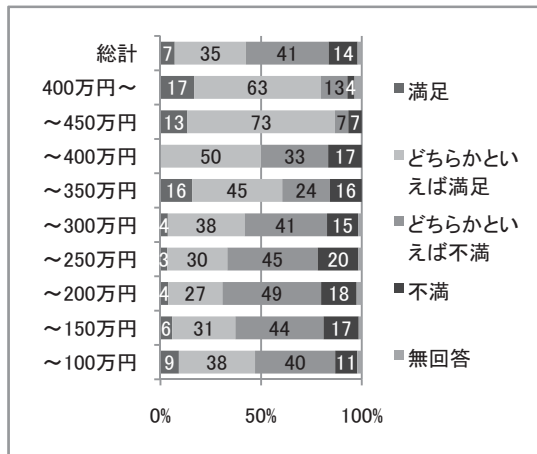


図4 本人年収と待遇満足

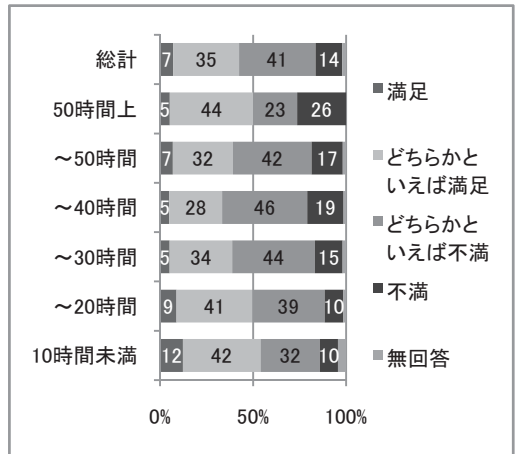


図5 労働時間(週)と待遇満足



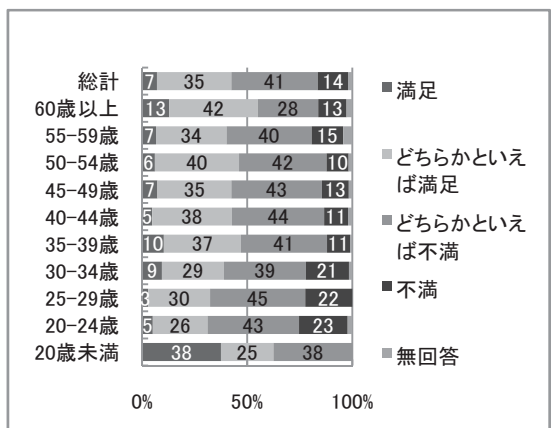


図6 年齢と待遇満足

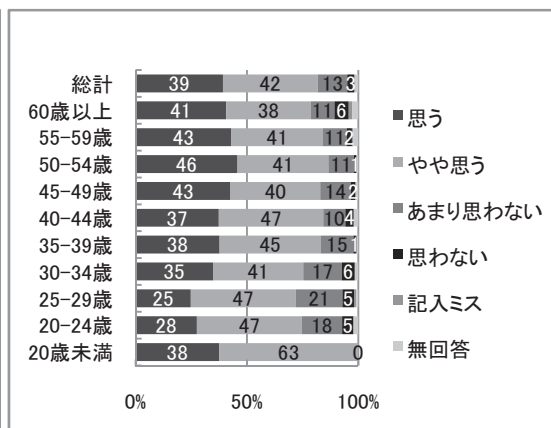


図7 年齢別学童の仕事が続けたいかどうか

では仕事への満足はどうだろう。仕事への満足は、満足（17%）、どちらかといえば満足（61%）を合わせて、78%が満足と答えている（年齢や雇用形態の差はない）。一方待遇については、満足（7%）、どちらかといえば満足（35%）を合わせて、42%が満足と答える。なお仕事に満足かどうかは労働条件は影響していないが、待遇に満足かどうかは労働条件に依存している。図4の通り年収の高い方が満足しているのであるが、労働条件が多岐にわたるため一概には言えない。週当たりの労働時間との関連を考えると（図5）、労働時間が30～40時間、年収が150～200万円の層に不満が高まっている可能性を指摘できる。また年齢が低くなるほど待遇に不満を持つ傾向も見られる。

指導員の仕事の継続についても年齢よる差異がみられたが（図7）、本人年収、労働時間（週）との関連は見いだせなかった。待遇への不満がそのまま仕事の継続に結びつくのではなく、将来展望と関わって継続を希望しないという可能性を示唆している。

表10 あなた自身の健康について

	（%）				
	全くない	ほとんどない	ときどきある	いつもある	無回答
今の仕事は私にとってあまり意味がないと思うことがある	41	49	8	1	1
仕事の成り行きや結果はどうでもよいと思うことがある	38	51	10	0	1
自分の仕事がつまらなく思えて仕方のないことがある	41	43	14	1	1
同僚や仕事の相手に対してげんやいな言葉づかいをすることがある	37	49	13	0	1
仕事を、何もかも途中で投げ出したくなることもある	38	46	14	1	1
同僚や仕事の相手の顔を見るのも嫌になることがある	42	36	20	2	1
同僚や仕事の相手と、何も話したくなることもある	33	45	16	1	5
この仕事は、私だけにしかできないと思うことがある	31	46	19	2	1
同僚や他の人たちよりも働きすぎていると思うことがある	27	42	25	5	1
同僚や仕事相手の気持ちを思いやるのを苦手に感じることもある	19	51	27	1	1
出勤前、職場に出るのが嫌になって、家にいたいと思うことがある	23	41	32	3	1
「こんな仕事、もうやめたい」と思うことがある	22	36	38	3	1
細々と気配りすることが面倒に感じることもある	14	44	39	2	2
われを忘れるほど仕事に熱中することがある	9	41	44	5	2
仕事よりも、自分の生活を大事にしたいと思うことがある	8	33	50	7	1
朝起きた時、きのうの疲れがまだ残っていると感じることもある	10	25	55	8	1
体も気持ちも疲れ果てたと思うことがある	6	28	60	5	2
我ながら、仕事をうまくやり終えたと思うことがある	3	24	68	3	2
仕事が好きで、知らないうちに時間が過ぎることがある	3	18	67	11	1
一日の仕事が終わると「やっと終わった」と感じることもある	5	19	58	17	1
仕事を終えて、今日は気持ちよい日だったと思うことがある	2	11	76	9	1
仕事に、心から喜びを感じることもある	2	11	71	15	1
この仕事は自分の性分に合っていると思うことがある	3	11	58	27	2

一方労働条件や属性との関連が見られなかった仕事への満足を規定するものは何なのだろうか。次に検討する設問は、田尾による「バーンアウト尺度」(田尾は5件法)<sup>26</sup>を利用した設問である。田尾はこれらの項目を消耗因子と達成因子に分かれるとし、それぞれの下位尺度得点を用いるとしているが、ここではあらためて因子分析を行った。その結果が表11である(5項目は分析から排除)。

田尾の消耗因子がさらに、心身の疲れに関わる「疲労因子」、同僚などの人間関係に関わる「関係不全因子」、仕事の意義に関わる「無意味因子」に分けることができた(固有値=1以上)。また達成因子は、仕事への喜びにかかわる「熱中因子」、個人的な仕事の達成に関わる「個人達成因子」に分かれている。それぞれ互いに因子間の相関は高く、消耗因子と達成因子に統合することも可能であるが、ここではこの5因子の得点を用いて、クラスター分析を行った。なお久保<sup>27</sup>はこの尺度をもとに17項目にまとめた日本版バーンアウト尺度を作成し、「情緒的消耗感」「脱人格化」「個人的達成感の低下」の3つの指標を作成しているが、「情緒的消耗感」は「疲労因子」と、「脱人格化」は「関係不全因子」「無意味因子」と、「個人的達成感の低下」は「熱中因子」「個人達成因子」と対応している。

因子構造の違いは、久保らの調査が看護師や教師などフルタイム労働者を対象としているのに対し、学童保育指導員はほとんどがパートタイム労働者であり、年代によって就業の動機付けが大きく異なるからであると考えられる。

表11 あなた自身の健康について(因子分析)

	疲労因子	熱中因子	関係不全因子	無意味因子	個人達成因子
体も気持ちも疲れ果てたと思うことがある	0.729	0.007	-0.054	-0.057	0.053
一日の仕事が終わると「やっと終わった」と感じることもある	0.696	0.066	-0.061	-0.037	-0.028
朝起きた時、きのうの疲れがまだ残っていると感じることもある	0.594	0.025	-0.047	-0.012	0.074
出勤前、職場に出るのが嫌になって、家にいたいと思うことがある	0.535	0.011	0.179	0.071	-0.124
「こんな仕事、もうやめたい」と思うことがある	0.463	-0.131	0.155	0.035	-0.061
仕事に、心から喜びを感じることもある	0.107	0.773	0.034	-0.093	-0.072
仕事が楽しくて、知らないうちに時間が過ぎることがある	-0.039	0.648	0.024	0.015	0.009
この仕事は自分の性分に合っていると思うことがある	-0.018	0.366	0.012	-0.068	0.215
仕事を終えて、今日は気持ちよい日だったと思うことがある	0.001	0.628	0.013	0.092	0.003
同僚や仕事の相手の顔を見るのも嫌になることがある	-0.060	-0.043	0.903	-0.115	0.035
同僚や仕事の相手と、何も話したくないことがある	-0.056	0.120	0.715	0.151	-0.045
同僚や仕事相手の気持ちを思いやるのを苦手に感じることもある	0.047	0.015	0.505	0.114	-0.029
仕事の成り行きや結果はどうでもよいと思うことがある	-0.079	0.066	0.083	0.733	0.032
今の仕事は私にとってあまり意味がないと思うことがある	0.055	-0.207	0.026	0.462	0.059
仕事よりも、自分の生活を大事にしたいと思うことがある	0.336	0.014	-0.117	0.368	0.037
この仕事は、私だけにしかできないと思うことがある	-0.021	0.058	-0.034	0.083	0.571
我ながら、仕事をうまくやり終えたと思うことがある	0.005	0.307	-0.041	0.063	0.412
同僚や他の人たちよりも働きすぎていると思うことがある	0.156	-0.081	0.319	-0.100	0.400
因子抽出法: 主因子法 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法(6回の反復で回転が収束)					
因子相関行列	1	2	3	4	5
1	1.000	-0.321	0.563	0.527	0.050
2	-0.321	1.000	-0.190	-0.432	0.447
3	0.563	-0.190	1.000	0.460	0.187
4	0.527	-0.432	0.460	1.000	-0.134
5	0.050	0.447	0.187	-0.134	1.000

クラスターを6つに設定した結果を図8に示す。まず元気層(254名, 10%)は熱中因子が高く、消耗を示す3因子が低い。気楽層(461名, 18%)は、熱中因子・個人達成因子は高くないが消耗を示す3因子は元気層と同程度に低い。中間層(679名, 27%)は人数が最も多く全体的に中庸を示し、倦怠層(331名, 13%)は消耗を示す3因子は中庸であるが、熱中因子・個人達成因子が低い。

疲労層（350名，14%）は熱中因子が中庸であるほかは高い値を示し，消耗は激しいが仕事への情熱は失われていない。それに比べ，喪失層（220名，9%）は消耗を示す3因子が高いうえに熱中因子・個人達成因子が低く仕事への情熱が失われている（失われていた）ことが分かる。バーンアウトの視点からはむしろ疲労層が，仕事での疲労を抱えつつも「私だけにしかできない」「他の人たちよりも働きすぎている」と考える傾向が強く，仕事への熱中も低くはないことから，より深刻な状況であるとも考えられる。というのもバーンアウトの定義にも関わってくることであるが，疲労や無意味感を抱えつつも，一方でうまくやっていたりいかなくてはいけないという想いが，さらなる疲労への動因になるという循環に陥っている可能性があるからである。あるいは個人的な達成を得ることで，同僚との関係を築くことができず，多忙な状況は変わらないという循環もありうる。

しかしながらバーンアウトをプロセスとして考えれば，倦怠層やとりわけ喪失層がいかなるプロセスを経てその状態にあるのかを検討することなしに，バーンアウトであるということはできない。自由記述欄にも書かれていたことであるが，他に指導員のなり手がなく，やむを得ず呼びかけ人であったがゆえに指導員をしているという場合，はじめから仕事に熱中することを期待できないからである。むしろそれがバーンアウトでないとしても，喪失層にあること自体は望ましい状態ではなく，疲労層・喪失層が合わせて23%の要因を検討していかなくてはならない。

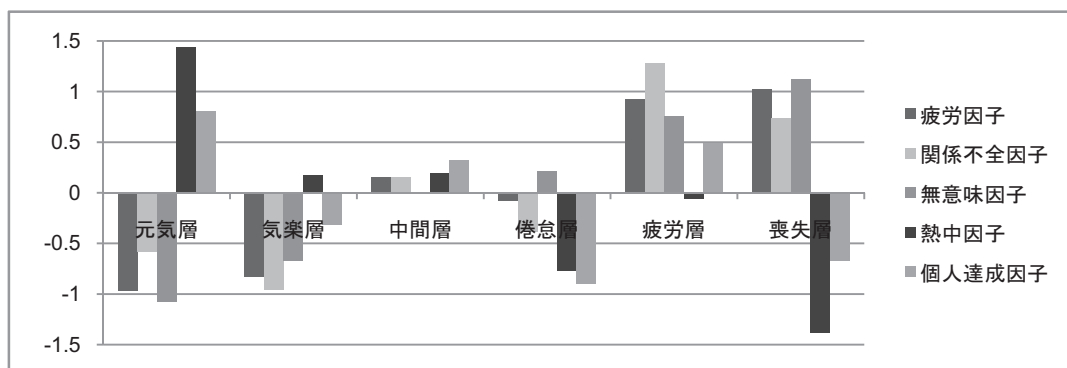


図8 バーンアウト・クラスター中心

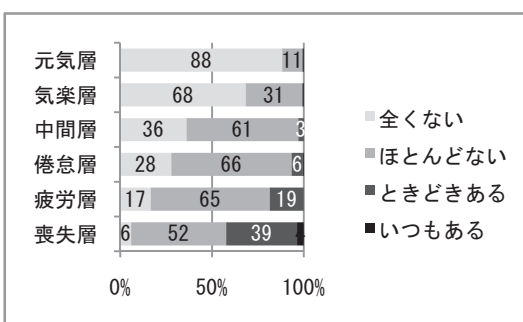
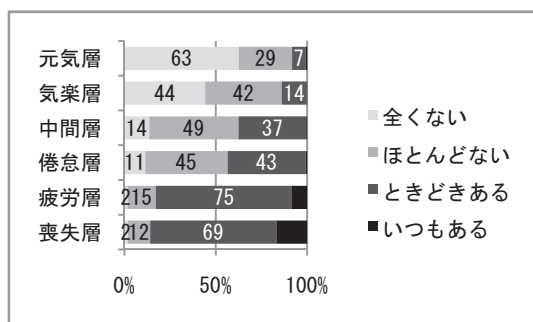


図9 クラスター「こんな仕事，もうやめたい」と思うこと 図10 クラスター別「意味がないと思うこと」

これらの区分は相対的な区分であるため，各項目の絶対的な得点を確認しておく必要がある。たとえば図9は，「こんな仕事，もうやめたい」と思うことがある，図10は「今の仕事は私にとって

あまり意味がないと思うことがある」という設問に対する回答のクラスター別の割合である。疲労層と喪失層の80%以上が「こんな仕事、もうやめたい」と、少なくともときどきは思っており、また喪失層の40%は「今の仕事は私にとってあまり意味がない」と少なくともときどきは思っているという程度であることを確認する。

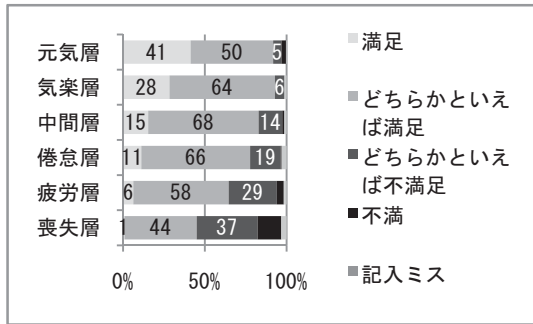


図11 クラスターと仕事満足

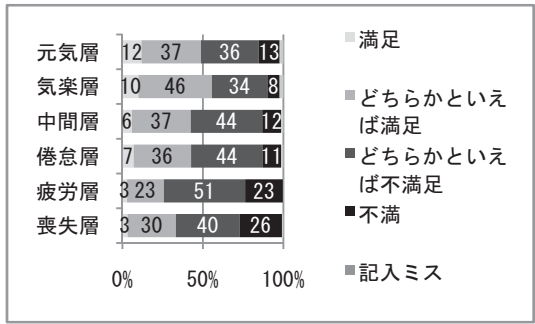


図12 クラスターと待遇満足

また、図11はクラスターごとの仕事への満足度、図12は待遇への満足度を示したものである。仕事への満足度が元気層から喪失層まで一貫して落ちていること、とりわけ喪失層において、「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせると52%となっていることが注目される。待遇への満足度も元気層と気楽層、疲労層と喪失層の順序が逆だが、一定の傾向があることが確認できる。元気層と疲労層は、ともに個人達成因子が高いがゆえに、それに見合うだけの賃金を得ていないと考えていると推察できる。次にこの6つのクラスターが生じる要因、とりわけ疲労層や喪失層がどのような条件下で生じやすいのか、逆に言えば元気層はどのような条件下で生じやすいのかを検討する。

### 第4章 疲労と喪失を規定するもの

図13は指導員の仕事を今後も続けていこうと思っているかどうかをクラスター別に割合を示したものであるが、喪失層の約半数（45%）が仕事の継続を望んでいない。喪失層は他のクラスターと比べて、無意味因子得点が最も高く熱中因子が最も低い、仕事にやりがいを感じることができていない層である。「こんな仕事、もうやめたい」と思う頻度は疲労層と変わらなかったのだが、実際にやめることを考えると、クラスター間の違いが表れる。

クラスター別にやめたい理由をまとめたのが図14である。全体的には待遇面に対する不満をやめたい理由にあげる者が多いが、喪失層では「仕事に自信がなくなったから」「人間関係がむずかしく仕事がうまくいかないから」「保護者との関係がうまくいかないから」といった理由をあげる者が相対的に多く、とりわけ最初の理由はバーンア

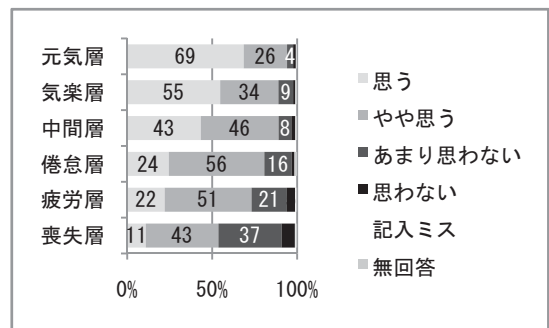


図13 クラスター別離職意思

ウトの結果喪失層になったことが推察される。疲労層では「人間関係がむずかしく仕事がうまくいかないから」「指導員同士の関係がむずかしくなったから」と、同僚との関係を理由にあげる者が多い。そもそも関係不全因子の高い層が疲労層であったことと対応しているのだが、とりわけ同僚の関係性が疲労に与える影響が大きいことが示唆される。また倦怠層と気楽層はともに仕事では消耗していないが充実もしていないという層であり、「他の仕事に興味を持ったから」という理由が多いのもうなずける。

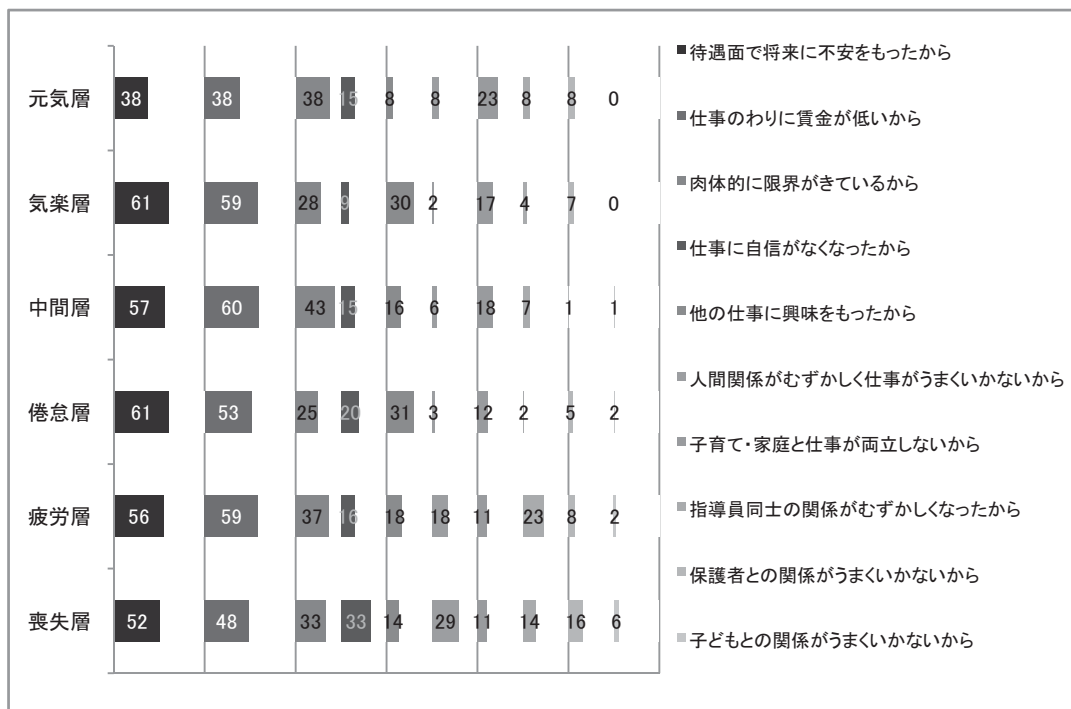


図14 クラスター別やめたい理由（3つ選択）

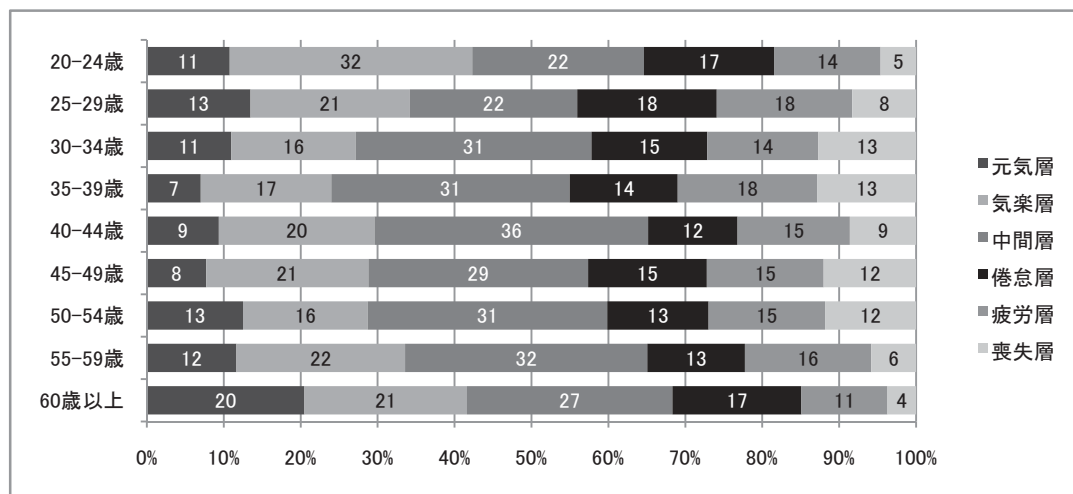


図15 年齢別クラスター

さてクラスターごとの属性を確認しておこう。まず年齢との関係(図15)は、30歳代後半から50歳代前半にかけて元気層・気楽層がやや少なく、疲労層・喪失層がやや増える傾向がみられる。続いて経験年数との関連である(図16)。経験年数が上がるほど、気楽層・倦怠層が減少し、疲労層が増加する。とりわけ全体の9%を占める経験年数15年以上のベテランに疲労層が顕著に多く、同時に気楽層・倦怠層が少ないことを考えると、仕事への責任や業務量がベテランに集中している可能性を示している。

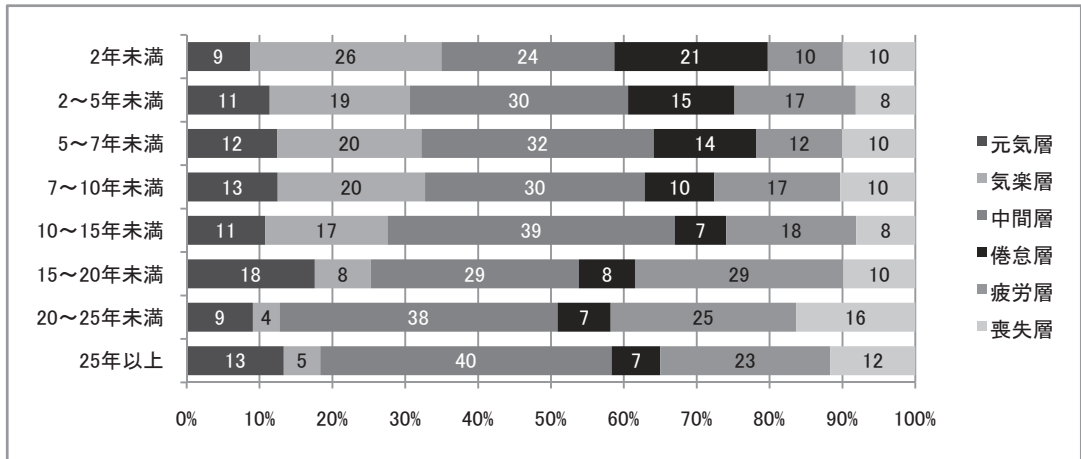


図16 経験年数別クラスター

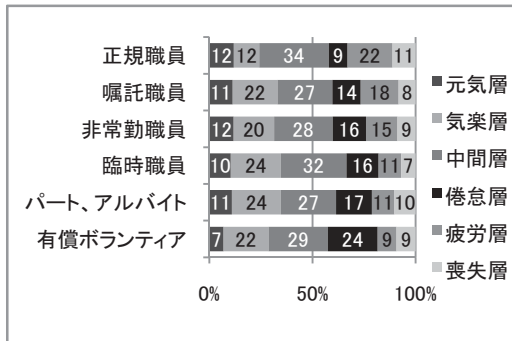


図17 雇用形態別クラスター

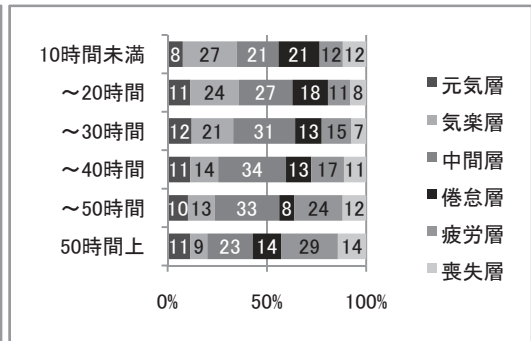


図18 労働時間(週)別クラスター

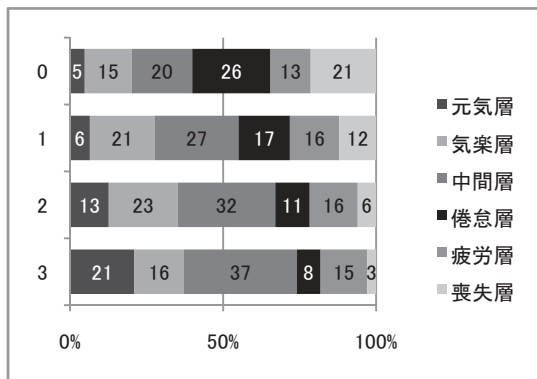


図19 仕事の内容で選んでいる個数別クラスター

次に意識の側面との関連を考えたい。バーンアウトが終わりのない対人サービスを職業規範として持たざるを得ない親密圏の構築に関わる労働者に固有のものであるとすれば、仕事における意識のありようこそが問題となるからである。図19は指導員となった動機との関連を示したものである。動機に関する調査項目には仕事内容に関する項目が3つ含まれており、この3つの項目をどれだけ選択しているかによって分けたものである。なおこ

の設問は3項目を選択する形式になっており、仕事内容で3つ答えている者は、他の経済的な理由等を選択していないことになる。図19を見る限り、仕事の内容で選んでいない者ほど、喪失層に分類される割合が高くなる。しかし疲労層の割合は変化がない。ということは、喪失層は動機によって規定されるが、疲労層は動機に規定されないことを示している。つまりどのような層の指導員であっても、疲労層に陥る可能性があり、それを規定しているのは、労働時間と責任の重さ及び同僚の人間関係であるというのが現時点での結論である。

一方、元気層や倦怠層も動機によって規定されていることが分かる。特に元気層は仕事の内容だけを選んでいる者（3つとも選択）では21%と多く、中間層も37%と他と比べて一番多い割合を示している。逆に仕事内容に熱意を感じることの少ない倦怠層は最も低い。この結果は、仕事内容に対する動機付けが重要であることを示しているが、就業時の動機というだけではなく（そもそもこの結果は現時点で思い出されたものであり、現在の意識が回答に影響を与えていることが予想される）、研修等による仕事内容への動機付けが重要であることを示唆している。

今後学童保育指導員の労働を捉えていこうとするならば、次のことに留意した調査・分析が必要となる。まず市町村・都道府県による違いを把握しなければならない。同じ運営主体であったとしても、市町村が変われば労働条件や個別の学童保育の裁量の程度は異なることが予想される。同時に運営主体・開設場所による類型化及び、比較が必要である。またベテランへの仕事の集中がバーンアウトを生み出し、職場の人間関係が疲労層を規定しているであるとすれば、個々の職場の指導員の構成やバーンアウトのプロセスを明らかにする必要がある。とはいえこれらを質問紙調査で明らかにすることは難しい。個別の事例を検討することにより、調査項目を精選していかなければならないだろう。さしあたり、同じ調査結果を用いて、学童保育の生活の場の質的側面に踏み込んでいくことが次の課題である。

i 奥野隆一「学童保育指導員の「労働と生活調査結果」（『学童保育研究』No.9, 2008年）において調査の概要が報告されている。

ii たとえば数理統計研究所の「日本人の国民性調査」等。

iii 見田宗介『社会学入門——人間と社会の未来——』岩波書店、2006年。

iv 下浦忠治『岩波ブックレットNo.565 学童保育——子どもたちの「生活の場」——』岩波書店、2002年。

v 全国学童保育連絡協議会『学童保育の実態と課題 2007年版実態調査のまとめ』2007年。

vi 田尾雅夫によるバーンアウト尺度（堀洋道・山本真理子・松井豊編『心理尺度ファイル——人間と社会を測る——』垣内出版株式会社、1994年）。

vii 久保真人『バーンアウトの心理学——燃え尽き症候群とは』サイエンス社、2004年。

(2010年1月20日受付、2010年1月29日受理)









設問	年齢	20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上	無回答	総計
子どもからどのように呼ばれているか	ニックネーム	37.5	34.8	36.7	34.7	31.7	16.1	12.5	17.8	13.9	14.4	44.4	20.7
	先生	62.5	52.9	51.4	50.0	59.0	74.0	76.0	71.4	71.4	72.2	33.3	67.3
	名前に「さん/くん」付け	0.0	4.3	3.8	4.2	2.7	3.4	3.5	3.9	5.5	3.7	0.0	3.9
	その他	0.0	1.4	1.9	3.7	2.7	2.4	1.9	1.8	2.3	2.1	0.0	2.2
	記入ミス	0.0	4.3	5.7	6.8	3.3	3.1	5.2	4.5	4.3	5.3	0.0	4.7
無回答	0.0	2.2	0.5	0.5	0.5	1.0	0.8	0.6	2.6	2.1	22.2	1.2	
子どもをどのように呼ぶか	ニックネーム	25.0	19.6	21.4	15.8	16.9	8.9	5.0	5.3	4.0	0.5	0.0	8.9
	呼び捨て	37.5	23.2	24.3	20.5	17.5	14.7	8.8	8.5	4.6	8.6	22.2	12.5
	名前に「さん/くん」付け	37.5	46.4	45.2	42.6	49.7	66.1	73.1	76.9	79.5	77.0	44.4	66.3
	その他	0.0	2.2	1.9	2.6	2.2	3.1	4.2	2.2	1.7	3.2	0.0	2.7
	記入ミス	0.0	6.5	7.1	18.4	13.1	6.2	8.4	6.5	8.4	8.0	11.1	8.6
無回答	0.0	2.2	0.0	0.0	0.5	1.0	0.6	0.6	1.7	2.7	22.2	1.0	
学童保育について学校や先生と議論することはあるか	ある	0.0	5.8	7.6	18.9	19.1	19.2	21.5	22.5	23.1	25.1	11.1	19.5
	ややある	25.0	28.3	35.2	31.6	33.9	42.5	34.7	31.2	32.4	30.5	33.3	33.6
	あまりない	50.0	40.6	40.5	35.3	32.2	24.7	30.3	30.6	31.8	26.7	22.2	31.6
	ない	25.0	23.2	16.2	14.2	14.2	11.6	12.9	15.4	10.7	14.4	11.1	14.1
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.3	0.5	0.0	0.2
無回答	0.0	2.2	0.5	0.0	0.5	1.4	0.6	0.4	1.7	2.7	22.2	1.1	
保育にあたり以下のことをどのくらい大切に思っていますか。													
子どもをできるだけほめること	大切に思う	62.5	69.6	70.5	73.2	75.4	74.0	77.0	78.5	76.0	74.9	44.4	75.2
	やや大切に思う	12.5	23.2	25.2	22.6	18.6	20.5	19.2	18.5	19.7	18.7	33.3	20.2
	どちらとも言えない	25.0	4.3	3.8	3.2	4.9	3.8	2.7	2.4	2.0	1.6	0.0	3.0
	あまり大切に思わない	0.0	0.7	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	1.1	0.0	0.2
	大切と思わない	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1
記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	
無回答	0.0	2.2	0.0	0.5	1.1	1.7	1.0	0.2	2.0	3.2	22.2	1.3	
子ども一人一人に即した対応をすること	大切に思う	75.0	79.7	78.1	77.9	76.0	75.7	76.4	79.5	73.4	73.8	77.8	76.7
	やや大切に思う	25.0	15.9	19.5	20.5	20.2	19.9	19.8	17.9	18.2	16.6	0.0	18.8
	どちらとも言えない	0.0	2.2	1.9	1.6	2.7	2.7	2.1	2.0	4.9	5.3	0.0	2.7
	あまり大切に思わない	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	大切と思わない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.0	0.5	0.0	0.1	
無回答	0.0	2.2	0.0	0.0	1.1	1.4	1.5	0.2	3.5	3.7	22.2	1.5	
自分の子どもと同じような気持ちで接すること	大切に思う	25	33	31	33	43	46	42	39	49	55	44	42
	やや大切に思う	38	17	21	21	30	22	28	30	23	22	22	25
	どちらとも言えない	38	36	35	36	23	27	25	25	21	16	11	26
	あまり大切に思わない	0	2	4	3	1	3	2	2	3	2	0	2
	大切と思わない	0	6	2	3	0	0	0	2	1	1	0	1
記入ミス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
無回答	0	6	7	5	3	2	2	3	3	4	22	3	
子どもが学童で安心して過ごせること	大切に思う	100.0	89.9	89.0	88.4	89.1	86.3	91.0	90.7	87.6	90.4	55.6	89.3
	やや大切に思う	0.0	5.1	9.5	10.0	9.3	10.6	7.3	7.9	7.2	3.7	22.2	8.0
	どちらとも言えない	0.0	2.9	1.0	1.6	0.5	0.7	0.2	0.4	0.6	0.0	0.0	0.7
	あまり大切に思わない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.1
	大切と思わない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.9	1.6	0.0	0.3	
無回答	0.0	2.2	0.5	0.0	1.1	2.1	1.3	0.8	3.5	4.3	22.2	1.7	
子どもがしたいことを尊重すること	大切に思う	12.5	23.9	25.2	31.6	21.3	21.6	17.3	22.5	25.4	31.0	22.2	23.3
	やや大切に思う	50.0	49.3	50.0	42.1	47.5	37.3	46.3	46.7	37.0	39.0	44.4	43.8
	どちらとも言えない	37.5	24.6	22.4	22.6	29.5	35.6	32.6	29.2	31.8	23.5	11.1	29.2
	あまり大切に思わない	0.0	0.0	1.4	2.6	0.5	2.7	1.7	0.8	0.9	1.1	0.0	1.3
	大切と思わない	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.0	0.0	0.1
記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5	0.0	0.1	
無回答	0.0	2.2	1.0	0.5	1.1	2.7	2.1	0.6	4.3	4.8	22.2	2.2	
子どもが好き嫌いをしないこと	大切に思う	12.5	15.9	13.3	18.4	19.7	20.9	20.3	23.1	24.6	35.3	22.2	21.6
	やや大切に思う	62.5	42.0	43.3	34.7	35.5	38.4	45.1	40.6	42.2	36.9	22.2	40.6
	どちらとも言えない	25.0	29.7	33.3	36.3	36.6	34.2	29.0	31.0	24.6	19.8	22.2	30.2
	あまり大切に思わない	0.0	8.0	7.1	7.9	5.5	4.5	3.3	3.4	5.2	1.6	11.1	4.7
	大切と思わない	0.0	2.2	1.4	2.6	0.5	0.3	0.2	0.6	0.3	1.1	0.0	0.8
記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.1	
無回答	0.0	2.2	1.4	0.0	2.2	1.7	2.1	1.4	3.2	4.3	22.2	2.1	
子どもが指導員の言うことを守ること	大切に思う	25.0	22.5	22.9	26.3	25.7	35.6	37.2	36.5	35.3	43.9	11.1	33.3
	やや大切に思う	62.5	44.2	48.1	41.1	51.4	45.9	47.6	48.3	43.1	36.4	55.6	45.8
	どちらとも言えない	12.5	26.8	25.2	27.9	17.5	14.7	13.2	12.2	17.6	14.4	11.1	17.0
	あまり大切に思わない	0.0	1.4	3.3	3.2	4.4	1.4	0.8	1.4	1.7	1.1	0.0	1.8
	大切と思わない	0.0	2.2	0.5	1.6	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.5	0.0	0.5
記入ミス	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.1	
無回答	0.0	2.2	0.0	0.0	1.1	2.4	1.3	0.8	2.3	3.2	22.2	1.5	

設問	年齢	20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上	無回答	総計
子どもが友達と一緒に遊ぶこと	大切に思う	75.0	79.0	71.0	70.5	68.9	71.9	72.0	76.3	80.9	73.8	44.4	74.1
	やや大切に思う	25.0	13.8	22.4	23.7	24.6	20.2	21.5	18.7	15.0	20.9	33.3	20.0
	どちらとも言えない	0.0	5.1	5.7	5.8	5.5	5.8	5.0	4.1	1.4	1.6	0.0	4.3
	あまり大切に思わない	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.3	0.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2
	大切と思わない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0
無回答	0.0	2.2	0.5	0.0	1.1	1.4	1.0	0.4	2.6	3.2	2.2	1.3	
子どもが元気に遊ぶこと	大切に思う	100.0	82.6	81.0	73.7	76.0	80.8	78.7	83.2	82.9	83.4	66.7	80.6
	やや大切に思う	0.0	12.3	13.8	19.5	18.6	12.0	17.5	14.2	11.3	11.8	11.1	14.5
	どちらとも言えない	0.0	2.9	4.3	6.8	4.4	5.1	2.3	1.6	2.6	1.1	0.0	3.1
	あまり大切に思わない	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.3	0.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2
	大切と思わない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0
無回答	0.0	2.2	0.0	0.0	1.1	1.7	1.0	0.4	3.2	3.2	22.2	1.4	
子どもが他の子どもの手助けをすること	大切に思う	62.5	68.8	70.0	63.7	64.5	62.0	64.3	65.7	63.9	63.1	33.3	64.7
	やや大切に思う	37.5	25.4	23.8	31.1	30.6	28.8	26.9	28.8	27.7	26.2	44.4	27.9
	どちらとも言えない	0.0	3.6	5.7	3.2	3.8	7.2	6.3	4.1	5.2	6.4	0.0	5.2
	あまり大切に思わない	0.0	0.0	0.5	1.6	0.0	0.3	0.6	0.4	0.3	0.0	0.0	0.4
	大切と思わない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0
無回答	0.0	2.2	0.0	0.0	1.1	1.4	1.9	0.8	2.9	3.7	22.2	1.6	
子どもが決まりをきちんと守ること	大切に思う	37.5	58.7	52.9	55.3	60.1	62.0	62.2	60.7	57.8	62.6	33.3	59.5
	やや大切に思う	62.5	34.1	37.1	33.7	32.8	31.5	33.4	34.3	30.9	27.3	44.4	33.0
	どちらとも言えない	0.0	5.1	9.0	7.9	5.5	4.1	2.9	3.9	6.6	5.9	0.0	5.1
	あまり大切に思わない	0.0	0.0	1.0	2.1	0.5	0.7	0.4	0.4	1.2	0.0	0.0	0.7
	大切と思わない	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.5	0.0
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5	0.0	0.1
無回答	0.0	2.2	0.0	0.5	1.1	1.7	1.0	0.4	3.2	3.2	22.2	1.5	
子どもの学年を超えたかわりをつけること	大切に思う	50.0	69.6	66.7	68.4	67.8	64.0	66.0	65.9	63.9	56.7	55.6	65.2
	やや大切に思う	50.0	23.9	27.6	26.3	26.8	26.7	27.3	28.4	25.7	31.0	11.1	27.3
	どちらとも言えない	0.0	3.6	4.3	4.2	2.7	6.8	5.4	4.7	6.1	4.8	11.1	5.0
	あまり大切に思わない	0.0	0.0	0.5	1.1	2.2	0.3	0.0	0.4	0.6	1.6	0.0	0.6
	大切と思わない	0.0	0.7	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	1.1	0.0	0.2
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0
無回答	0.0	2.2	0.5	0.0	0.5	2.1	1.3	0.4	3.5	4.3	22.2	1.6	
子どもの異性同士のかわりをつけること	大切に思う	25.0	38.4	31.9	29.5	36.6	29.1	28.2	25.0	26.0	29.4	11.1	29.0
	やや大切に思う	62.5	42.8	44.3	40.0	36.1	37.7	35.3	37.9	32.1	29.9	22.2	36.8
	どちらとも言えない	12.5	14.5	20.0	26.3	20.2	27.7	30.3	29.0	29.5	28.3	44.4	26.8
	あまり大切に思わない	0.0	2.2	2.9	3.2	4.9	3.1	5.0	5.9	5.2	4.8	0.0	4.5
	大切と思わない	0.0	0.0	0.5	0.5	0.5	0.3	0.0	1.2	2.3	3.2	0.0	0.9
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0
無回答	0.0	2.2	0.5	0.5	1.6	2.1	1.3	1.0	4.9	3.7	22.2	2.0	
手作りのおやつを出しているか	いつも出す	12.5	12.3	10.5	5.3	7.1	3.4	4.0	4.1	3.8	4.3	0.0	5.3
	時々出す	0.0	40.6	45.7	47.9	49.2	43.2	32.6	32.9	34.1	34.2	44.4	38.0
	あまり出さない	37.5	14.5	18.1	15.8	15.3	16.8	15.4	19.3	17.3	18.7	11.1	17.1
	出さない	50.0	29.7	25.7	31.1	27.9	35.6	47.0	43.2	42.2	39.6	22.2	38.4
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0
	無回答	0.0	2.9	0.0	0.0	0.5	1.0	1.0	0.4	2.6	2.7	22.2	1.2
土曜日や1日保育の場合、昼食を出しているか	いつも出す	12.5	6.5	4.8	5.3	4.9	3.4	2.5	3.6	2.3	6.4	0.0	3.9
	時々出す	0.0	25.4	24.8	17.4	21.9	17.8	16.9	15.4	15.6	5.9	22.2	17.2
	あまり出さない	12.5	8.0	14.3	11.6	9.8	11.3	10.0	9.3	9.0	12.8	11.1	10.4
	出さない	62.5	57.2	55.2	63.7	62.8	65.1	67.8	69.8	69.4	69.0	44.4	65.8
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.3	0.2	0.0	0.3	0.5	0.0	0.2
	無回答	12.5	2.9	1.0	1.1	0.5	2.1	2.5	2.0	3.5	5.3	22.2	2.4
施設の清掃に子どもたちはどの程度かかわっているか	いつもする	12.5	23.2	30.0	30.5	26.2	20.9	19.4	20.5	21.1	19.3	11.1	22.4
	時々する	25.0	34.8	33.8	27.4	35.5	36.0	35.7	33.3	29.2	29.9	22.2	33.0
	あまりしない	12.5	24.6	25.7	25.3	25.1	27.7	29.2	29.6	28.0	29.9	33.3	27.9
	しない(させない)	50.0	15.2	10.5	16.8	12.0	14.4	14.6	16.0	19.7	17.6	11.1	15.5
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.3	0.5	0.0	0.1
	無回答	0.0	2.2	0.0	0.0	1.1	1.0	0.8	0.6	1.7	2.7	22.2	1.1
あなたは、最近6ヶ月の間に、次のようなことがどれくらい起こりましたか。													
「こんな仕事もうやめた」と思うことがある	全くない	0.0	28.3	21.9	18.4	15.3	18.8	20.7	23.3	22.5	29.9	11.1	21.8
	ほとんどない	75.0	31.2	25.7	34.2	36.1	39.7	38.2	37.5	35.5	35.8	22.2	35.9
	ときどきある	25.0	36.2	46.7	40.5	44.3	37.0	37.0	35.9	37.0	28.9	33.3	37.7
	いつもある	0.0	2.2	5.2	6.8	3.8	3.8	3.5	2.6	2.3	2.1	0.0	3.4
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0
無回答	0.0	2.2	0.5	0.0	0.5	0.7	0.6	0.8	2.6	2.6	33.3	1.2	







設問	年齢	20歳	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60歳	無回	総計
		未満	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	以上	答	
計画したことを能率よくこなすことができ、働きやすい	思う	0.0	9.4	8.1	8.9	9.3	13.4	12.1	11.6	15.6	20.9	11.1	12.3
	やや思う	75.0	47.1	46.7	42.1	50.3	50.3	50.9	52.7	51.7	49.7	11.1	49.9
	あまり思わない	25.0	37.0	36.7	40.0	35.5	31.2	31.3	30.4	24.0	19.3	44.4	31.0
	思わない	0.0	5.1	7.6	8.9	4.4	3.4	4.8	3.9	5.8	5.9	11.1	5.2
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	0.0	1.4	1.0	0.0	0.5	1.7	0.8	1.4	2.9	4.3	22.2	1.6
学童保育で、自分のやっていることが、どういったことに役立っているのかわかりしている	思う	0.0	13.8	15.2	17.4	14.8	15.4	16.9	19.1	25.7	31.6	22.2	19.0
	やや思う	75.0	43.5	45.7	42.1	51.9	55.5	48.6	52.1	49.4	47.6	33.3	49.4
	あまり思わない	25.0	37.0	34.8	32.1	29.5	25.0	29.4	25.6	19.4	13.4	22.2	26.6
	思わない	0.0	4.3	4.3	8.4	3.3	3.1	3.8	2.2	2.0	3.2	0.0	3.5
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	0.0	1.4	0.0	0.0	0.5	1.0	1.3	1.0	3.5	4.3	22.2	1.5
同僚との仕事の上での調整や役割分担がうまくいっている	思う	12.5	29.0	23.8	25.3	24.0	31.2	34.7	32.3	39.9	46.0	11.1	32.5
	やや思う	87.5	51.4	49.0	48.9	52.5	50.7	53.2	50.9	41.9	38.5	22.2	49.0
	あまり思わない	0.0	15.2	17.1	18.9	20.2	13.7	9.6	12.8	12.4	10.7	33.3	13.6
	思わない	0.0	3.6	9.5	6.3	3.3	3.4	1.7	3.4	3.2	2.1	11.1	3.7
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	0.0	0.7	0.5	0.5	0.0	1.0	0.8	0.6	2.6	2.7	22.2	1.1
職場では、いろいろな意見が出て納得のいく決定がなされている	思う	25.0	25.4	19.5	21.6	12.0	23.3	20.3	21.5	24.6	30.5	11.1	21.9
	やや思う	62.5	44.2	46.7	46.8	50.3	46.9	52.0	50.7	41.9	39.6	22.2	47.4
	あまり思わない	12.5	22.5	25.7	25.3	31.1	25.0	21.9	20.9	23.4	22.5	44.4	23.6
	思わない	0.0	6.5	8.1	6.3	5.5	3.4	4.6	5.9	7.8	3.2	0.0	5.6
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	0.0	1.4	0.0	0.0	1.1	1.4	1.3	1.0	2.3	4.3	22.2	1.5
あなたは、家族で仕事の悩みを聞いてくれる人がいる	思う	62.5	55.1	52.9	45.8	48.6	43.2	48.4	50.7	48.8	42.2	33.3	48.4
	やや思う	12.5	20.3	27.6	26.8	27.9	36.6	31.9	28.0	26.0	24.6	33.3	28.6
	あまり思わない	12.5	9.4	11.9	13.2	12.6	10.6	10.6	12.8	14.2	14.4	0.0	12.2
	思わない	12.5	14.5	7.6	14.2	10.4	8.2	7.7	7.9	8.4	13.9	11.1	9.4
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	0.0	0.7	0.0	0.0	0.5	1.4	1.3	0.6	2.6	4.8	22.2	1.4
あなたは、家でリラックスできている	思う	50.0	65.2	65.7	51.6	50.3	49.7	54.5	61.3	62.7	63.1	44.4	58.0
	やや思う	50.0	22.5	25.7	32.1	33.9	35.6	33.8	30.0	29.5	26.2	11.1	30.7
	あまり思わない	0.0	10.1	5.7	13.2	12.0	12.0	9.2	6.3	4.6	5.3	22.2	8.3
	思わない	0.0	1.4	2.9	3.2	3.8	1.7	1.9	2.2	1.7	2.1	0.0	2.2
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	1.0	0.6	0.2	1.4	3.2	22.2	0.8
家族以外で仕事のことを相談できる人がいる	思う	50.0	72.5	64.8	50.5	53.0	50.0	55.1	55.2	53.8	49.7	44.4	55.2
	やや思う	37.5	16.7	20.5	28.4	31.7	35.6	29.6	29.0	30.3	27.8	22.2	28.8
	あまり思わない	0.0	8.0	9.5	13.7	12.6	8.6	11.5	10.1	9.8	9.6	0.0	10.3
	思わない	12.5	2.2	5.2	7.4	2.7	5.1	3.1	5.5	4.0	9.6	11.1	4.9
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.6	0.2	2.0	3.2	22.2	0.9
あなたは、経済的なことや家族関係のことで悩んでいる	思う	12.5	23.2	23.8	20.0	15.3	10.6	11.7	8.9	7.5	4.3	22.2	12.4
	やや思う	12.5	35.5	31.0	31.1	29.0	26.7	25.7	20.9	18.2	14.4	33.3	24.6
	あまり思わない	50.0	20.3	24.8	21.6	29.5	34.2	25.3	25.8	25.4	20.9	0.0	25.8
	思わない	25.0	20.3	20.5	27.4	26.2	27.4	36.3	44.2	47.1	58.3	22.2	36.3
	記入ミス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.2	1.7	2.1	22.2	0.9